

「新しい品質保証体制」の適用範囲については、プロジェクトを実施するために東工所が担当する全業務（本社等の他機関を支援する業務や外注管理業務を含む）とした。

5. プロジェクト実施計画書の種類と運用について

プロジェクト実施計画書は、「プロジェクト全体計画書」と「業務ブロック別計画書」の2種類に分類した。「プロジェクト全体計画書」については、プロジェクトの調査・計画段階から検査・財産整理までの全体概要を示した計画書であり、「業務ブロック別計画書」は、プロジェクト全体を構成するために実施する各々の業務ブロック毎の計画書とした。業務ブロック別計画書の種類としては、調査・計画計画書/概略（詳細）設計計画書/工事計画書（案）作成計画書/工事発注・設計変更計画書/施工監理計画書/検査・財産整理計画書といったものがある。

これらのプロジェクト実施計画書の運用をフロー化したものが図-2である。また、プロジェクト全体計画書のフォーマット（案）を図-3に示す。

プロジェクト実施計画書の運用は図-2に示すようにプロジェクトの冒頭で「プロジェクト全体計画書」と「調査・計画計画書」を作成し、計画内容の変更や追加事項がある場合には、追加の計画書を作成することとした。また、会議等の履歴については業務ブロック別計画書に詳細に示し、重要事項についてはプロジェクト全体計画書に転記し、プロジェクト全体の経緯がわかるようにした。

6. 所内トレースの実施

ISO に対応した「新しい品質保証体制」を導入した場合のメリット・デメリットを把握するために、実務におけるトレースを3ヶ月間実施した。トレースの実施にあたっては、東工所が担当するプロジェクトの内から27件のプロジェクトを選定し、実務の中でプロジェクトのマネジメントに活用してもらった。

トレース終了後、プロジェクト担当者及びプロジェクト責任者にアンケートを実施し、導入の賛否を集計したところ、約90%の賛成の回答を得た。その主な理由は、「業務引継ぎに有効」「情報の共有化が図れる」「確実に履歴が残せる」といったものであった。反面「作成に時間がかかる」といった声も聞かれ、今後は更なる運用方法等の改善が必要であるとの結果となった。

7. おわりに

本年1月にISO9000s/2000が制定され、東工所のような発注機関においても、適用しやすい規格に変わった。今後は、ISO9000s/2000に対応した、「新しい品質保証体制」の構築に取組み、認証取得に向けての準備を進めていきたいと考えている。

【参考文献】

- 1) ISO9000s 審査登録シリーズ2「JIS'98年対応」品質マニュアル作成の手引き（細谷克也編著）（日科技連）1999.8
- 2) 2時間でわかる図解ISO9000 早わかり（白潟敏朗 著）（中経出版）1999.2

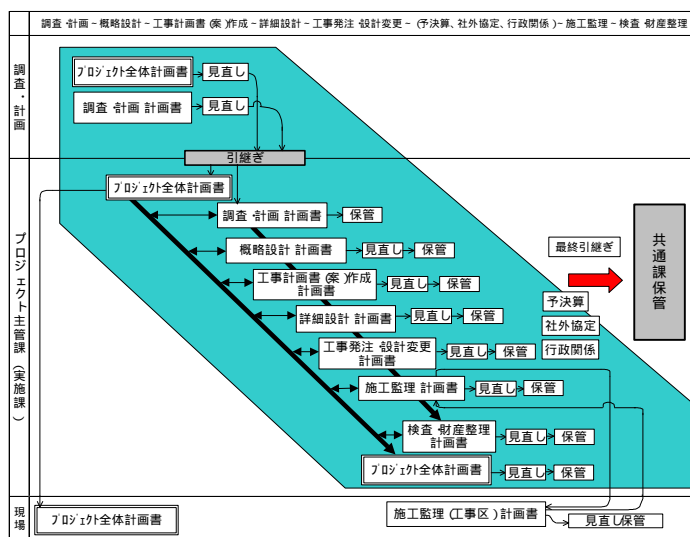


図-2 プロジェクト実施計画書運用フロー

図-3 プロジェクト全体計画書フォーマット（案）